

SSKO

「障害者」と 教会問題 ニュース

No. 68 2019. 10. 05

東京都新宿区西早稲田
2-3-18-24 (〒169-0051)
「障害者」と教会問題委員会
編集責任者 渡部 信
TEL 03-6302-1919
FAX 03-6302-1920
振替口座 00170-1-58810
NCC「障害者」と教会問題委員会

「『いのち』の大切さの共感と連帯」

NCC「障害者」と教会問題委員会委員長
橋本克也

1981年、国連「国際障がい者年」、障害者の「完全参加と平等」の呼びかけに応じて、NCC「障害者」と教会問題委員会は、毎年11月に「障害者」週間の呼びかけを全国のキリスト者に向かって発信しています。今年も「いのちの大切さを見つめて」をテーマに、11月10日(日)からの1週間が「障がい者」週間です。

すべての人は、神によって与えられた尊い「いのち」の尊重と平等を生きる者とされています。しかしさまざまな、誤解と偏見、差別の壁がなお厚くあることを認めなければなりません。私たちはさまざまな社会的、政治的状況のもとで、「障がい者」の立場から声を出し、改善を求めて働くことが責任と考え、また教会に向かって「障がい者」からの必要な発言をしてきました。

今年、11月16日(土)の「障がい者週間」の集いでは、「発達障がい」をテーマとする学びをし、共感と連帯できることを願っています。

今年7月14日から16日に開催された、NCC創立70周年記念第3回宣教会議の開会礼拝で、総幹事の金性済(キム・ソング)氏は「宣教は聖霊の風に吹かれ」と題する説教で、使徒言行録に記された「『地の果て』が見失われていることこそ教会の危機と自覚すべきこと」と語り、教派の違いを超え、さまざまな差別に苦しむ者の「いのちの叫び」に対し、「宣教の課題として共感、連帯していくことが重要なのだ」と指摘されました。「今こそ、数と量ですべてを測り、評価しようとする衝動への誘惑に気を付け、福音のため、代えられない大切なものを見失ってはならないのだ」と警鐘を鳴らしました。

「障害者」と教会問題委員会は、NCCの宣教・奉仕部門の一員として「いのちの痛み」に共感することを大切に、障がい者の立場からの「平和・平等・共存」への働きかけをしています。弱者である「障がい」を生きることこそは、キリストより与えられた光栄ある任務、という自覚と希望をも持って歩みたいと思います。

「障がい」は、一人ひとり、その在り方に違いがありますが、ほとんどの場合、その不自由や、苦痛から除かれることを望んでいますが、現実には、不自由や苦痛が無くなることはなく、また回復を期待できないで一生を送ることになります。誰もが、自分の「いのち」を生きることに、幸いと、平和への希望と、祈りをもって、強く望んでいます。また痛みと、傷ついた者としての叫びと、涙を、それぞれいっばいに抱えています。「いのち」の尊重を生きることは、自らの小ささ、弱さを受け入れる葛藤と、慈しみとの繰り返される共感が必要です。個人としてだけでなく、身近な人々、周囲の人々、そして社会が、「痛みと苦闘を」を共感して叫ぶこと、声を出すことの大切さを感じ、行動することが必要なのです。

2013年に「障害者権利条約」が批准され、2016年4月「障害者差別解消法」が施行され、法律などの環境は少しずつ整えられてきましたが、一般的な障がい者に対する偏見や差別の意識は、まだまだと言わざるを得ません。2016年7月、相模原障害者施設で起きた殺傷事件は、障がい者を取り巻く多くの課題が露呈されることになりました。

「痛み、悲しみ、弱さ」は、当然のように、幸いを損なうことだと考えられています。しかし本当の平和と、誰もが安心して、信頼できる社会は、力と、強さの支配や競争によっては、成り立たないのでしょうか。私たちの信頼するイエス・キリストの福音は、貧しさ、弱さ、痛みと悲しみにこそ、平和と幸いの道があることを宣言しています。

皆さんは、重い障がいを負う人の家族が、「この人が私たち家族の宝なのだ」という声に出会う経験をききとお持ちでしょう。その時、私たちは、本当の「平和と幸い」は、どこにあるのかを、新鮮な感動をもって気付かされます。そして、イエスさまの「癒し」がそこに実現されているのを知られるのだと思います。教会の交わりにあっても、ききと同じです。それは、自らの厚い偏見や差別の壁への、嬉しい挑戦と出会いの経験ともなったことではないかと思えます。

聖書が、神の子救い主キリストの誕生を、貧しい馬小屋の物語の内に語り継ぎ、神の愛と救いを、誰もが顔を背ける、痛みと、苦痛の十字架に実現し、常識と想像をはるかに超えた復活の出来事との新たな出会いを体験することになります。

「障害者」と教会問題委員会は、2000年から韓国NCCと2年ごとに交流会を続けていますが、昨年の11月に釜山で行われたセミナーのテーマは、「障がい者、平和を作る人」でした。「主イエスが述べられた到来する神の国の中心は、障がい者の救済である。障がい者が中心となることで神の国がある」という発題に共感し共有しました。継続してきた日韓「障がい者交流セミナー」によって、韓国の親しい方々と共に、今「いのち」の尊さを確認し、世界の平和を祈ります。

戦争は、障がい者を排除し、多くの人々の「命」を当然のように奪い、そして新たに多くの障がい者を生んできました。障がい者、弱い者を受け入れ、互いが支え合うことは、この地上に真に平和をもたらすことになるのです。

「日韓障がい者交流セミナー」は、来年2020年は日本で開催の予定です。以前から広島で行いたいという希望もあります。その時は、また皆さんに呼びかけさせていただきたいと思えます。

「『障害者』と教会問題ニュース」第68号 目次

- 「『いのち』の大切さの共感と連帯」……………委員長…橋本克也…(1)
- 「2019年度「障害者」週間のための祈り」…………(まとめ)橋本克也…(2)
- 「自閉症スペクトラムの人びとへの温かさ：キリスト者とはなにか？」……………須田 治…(3)
- 「2019年度 NCC『障害者』週間の集いのお知らせ」……………(4)
- 「『障害者』と教会問題委員会 献金者の皆様」(ご報告)……………(4)

「障害者」週間のための祈りを、教会学校や礼拝の中でお使いいただければ幸いです。

NCC「障害者」と教会問題委員会

2019年度「障害者」週間のための祈り

「障害者」と教会問題委員会委員長 橋本克也 (まとめ)

すべての創り主、すべての救い主である神さまは、祝福と愛をもって最後に私たち人間を、み心にかない、み心を喜ばせて生きる「いのち」として創られました。

しかし、その神さまの祝福と愛を忘れた私たちは、生きるためには各々の知恵と力が絶対必要と競争し合い、「いのち」を奪い合う戦争まで繰り返してきました。

そして戦争する力がないため差別・排除されてきた「障害者」の私たちですが、いま最高のみ力、神さまの祝福と愛による平和を、切に祈り求める者であります。信仰による恵みと望みに充ちた日々への「障害者週間の祈り」をお祈りください。

お祈り(1)

神さま、ことしも多くの自然災害、台風、長雨、洪水、そして原発の事故などで被災された方々のために祈ります。わたしたちが、希望と喜びを分かち合い、互いに仕え合い、あらゆる隔てを超えて力を合わせていくことができますように導いてください。あなたの義とあなたのみ国を求め、そのためにわたしたちがなすべきことを教えてください。あなたの憐れみと愛とでわたしたちを満たしてください。一人ひとりの命が祝福され、町や共同体があなたのみ心に相応しく復興されますように。その働きのために知恵と勇気とを与え、わたしたちを遣わしてください。主イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン

お祈り(2)

神さま、私達みながイエス・キリストの体である教会の交わりに共に招かれていることを感謝致します。あなたから計り知れない命の恵みを与えられながら、差別し合ったり、偏見をもって互いを受け入れることができずにいます。権力や武力などの強さに頼り、経済優先の考え方によって人間の価値を決める社会や教育、偏見やゆがんだ習慣を作りだしてしまっている罪をお赦しください。どうか私達があなたのみ言葉に従い、声なき声にも真に耳を傾け、互いに聴き合い、差別のない社会を作り出していくことができますように。知恵と勇気と信仰をお与えてください。ことに「障がい」を負う人々と共にイエス・キリストの和解と平和の福音を伝え、全ての人々が生きる喜びを見出すことのできる社会を作っていくことができますように。私達の主イエス・キリストのみ名によってお祈りいたします。アーメン。

お祈り(3) 子どもの祈り

神さま。わたしたちをあなたのあいする子どもとしてくださって、ありがとうございます。わたしたちは、みんな神さまからあたえられた大切ないのちのからだをもっています。でも、ひとりであるくことができない人がいます。友だちとはなすことができない人もいます。こえがきこえない人がいます。目が見えないひともいます。どうかわたしたちがあるけない人の足となり、はなすことのできない人の口になり、きこえない人の耳になることができますように。イエスさまはわたしたちに「光の子として歩みなさい」と言われました。どうか、わたしたちがこの世界を明るくてらすひとりひとりとなって、おたがいをかがやかすことができますように。みんなでいっしょにたすけ合って生きるためにイエスさまのやさしさとつよさをください。イエスさまのおなまえによって、おいのりします。アーメン。

「障害者」と教会問題委員会の献金のお願ひ

委員会の働きに、いつも皆さまの祈りと献金のお支えいただきましてありがとうございます。今年もクリスマスの献金など、ニュースレターの発行をはじめ活動のため引き続きご支援をお願いいたします。振り替え用紙を同封させていただきます。

日本キリスト教協議会「障害者」と教会問題委員会

自閉症スペクトラムの人びとへの温かさ：キリスト者とはなにか？

須田 治

首都大学東京 名誉教授
(発達心理学、専門：情緒的臨床)

わたしたちの社会のあり方について個人的意見を述べさせていただきます。

津久井やまゆり園の殺人テロは、「生産性がない障害者は、生きるべきじゃない」という信念に動機づけられていた。だがわたしたち自身にもどこかに経済生産性をもとめる発想があり、社会参加への「同調圧力」を子どもや障害者にも求めることがある。そうして、従順と生産性を求める文化は、100万人ともいわれる「引きこもり」を生みだしてきた。ことに自閉症スペクトラム障害(ASDと略)、とりわけアスペルガー症候群の人びと、あるいは引きこもりの人びとは、そのような圧力に敏感で拒否感を示すようである。たしかにキリスト教会は、「多様な発達を受け入れるべき」とはいつてきた。しかし経済的生産性の社会にすっかり批判的な表明をすることができなかった。明瞭にそういう世俗を批判してもよかったのではないか？ この国の「経済生産性万能」の文化風土は強烈であり、生産性の弱い人びとには、人権をも認めようとしない風土を生み出してきた。ボンヘッファーが、ナチスの人権侵害に抵抗したとき、彼は「告白」によって、自分の神への信頼を求めようとした。この告白とは、「隠し事を明らかにすること」ではなく、神との関係回復のための選択だったという(森野, 2005)。わたしたちは経済生産性がどうあるべきか言わなければ、障害をもった人の自然態をそのまま受容することは難しいと思うのである。

心身的な人間からの視点

わたしは、障害を身体的な困難とみることをすることによって、存在そのものが受容できることに近づきたいと思う。筆者は、人に「心身」を共にとらえることで存在そのものが理解しあえると考えた。それは1970年代に、ブルトマンの『イエス』(川端・八木, 1963)を読んだことがきっかけである。史的なイエスをとらえるとき、わたしが会ったペトロ神父はこう強調した。そこに書かれているのは、身体をもったイエスの実存であり、受肉したことの限界でもある。わたしの理解では、「身体的な生物的制約の中に生きるイエス」(史的イエス)と、「心理的希望のなかに生きるキリスト」(宣教のキリスト)を不可分なものにとらえることが、イエス・キリストの存在の深みの理解と思つたのである。

ASD、アスペルガー症候群、あるいは境界事例のケースでも、身体からの限界がじぶんの希望を制約している。それは感覚過敏やこだわり、喚起

(興奮)の上昇、予期不安、对人的怖れ、フラッシュバック、パニックなどで観察されるが、感覚や情動の機能に「生物的制約」が起こっていると推測される。しかも当事者の多くは、心的外傷も経験しており、改善しようにも、不安や怖れにより関係が創りにくいといえる。今日の脳神経科学分子生物学的研究からは、その障害は単純な責任遺伝子による欠損ではなく、乳児期から続く刻々とした多要因の相互作用的発達のなかでの神経細胞の連絡網形成の問題ととらえられており、それゆえ個々人、多様な困難のプロフィールを示していると考えられている。(須田, 2017)人間がなす科学では、その存在の理解にはどうしても限りがあるといえる。

情動的な支援と、わたしたちのかかわり

支援は、ASDの子どものばあい、ケース特殊な支援を、月日をかけて行えばこだわりやパニックや攻撃を軽減させることができる程度できる。すなわちまず、感覚過敏やこだわりから、極端に「喚起(情動的興奮)」が高まりパニックや暴力に訴えるプロセスに介入する。しかし、そうした問題は繰り返されるので、家族や学校に、当事者を受け入れるような環境を広く求め、「穏やかな情動的なやりとり」が大事にされなければならない。(須田, 2019)

このような様々な接近法は、いずれもヒトに生産性を求めるのではなく、より快適で喜びの生を回復することを目指すのである。そしてそれは周囲の人びとと共に求めるものである。その快適思考こそが、弱い人びとを受容しあえる共同体へと環境調整することになるだろうと思う。その当事者が、弱いながらも情緒的コミュニケーションをなし、楽しみや信頼を人とのあいだで積み立てるための挑戦である。それゆえ、彼らにはキリスト者のだれでもできるような、無償でふつうの貧しい「自然なコミュニティ」を社会に創る試みが、とても大事であると思つている。

ブルトマン(川端・八木訳)1963『イエス』未来社
須田治2019『生態としての情動調整 心身理論と発達支援』金子書房

須田治2017『感情への自然主義的アプローチ—自閉症スペクトラムへの発達支援』金子書房

森野善右衛門2005『告白と抵抗 ボンヘッファーの十字架の神学』新教出版社

2019年度 NCC「障害者」週間の集いのお知らせ

今年のNCC「障害者」週間の集いは、下記のとおり、全体のテーマを「命の大切さを見つめて」と決め、とくに「発達障害」について学び合い理解し合うことを望み準備いたしました。外面からは知られにくい障害だけに当事者にとっては深刻な問題であることを率直に認め合い、そこから良き分かち合いによる交わりのときを与えられたいと願っております。

多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

日時：2019年11月16日(土) 11時～15時

会場：目白聖公会(新宿区下落合3-19-4 下記地図参照)

参加費：1000円(昼食(軽食)代含む)

プログラム

11:00～11:40 開会礼拝(司式:北村智史牧師、メッセージ:橋本克也司祭)

11:40～12:15 宣教会議の報告(須賀義和司祭)

12:15～13:00 昼食、自己紹介(司会・小勝奈保子牧師)

13:00～14:10 発題(司会・小勝奈保子牧師)

講演:「発達障がいについて」

講師:須田 治さん(聖公会信徒)

文学博士 首都大学東京 人文科学研究科
名誉教授 客員教授 専門・情動発達心理学
資格・臨床発達心理士スーパーバイザー

14:10～14:45 質疑応答、全体討議

14:45～15:00 閉会礼拝(司式:塩山宗満牧師)

申し込み・問い合わせ先:須賀義和司祭(TEL042-642-6105 FAX042-642-6322)

パソコン要約・手話通訳の用意あり、点字資料の必要な方はご連絡下さい。

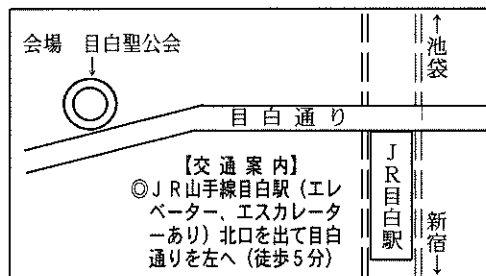
主催

NCC「障害者」と教会問題委員会

〒169-0051

東京都新宿区西早稲田2-3-18-24

TEL03-3203-0372 FAX03-3204-9495



「障害者」と教会問題委員会 献金者の皆様 (敬称略・順不同)

2018年4月から2019年2月末までに下記の通り、教会・団体・学校・個人から献金をいただきました。感謝をもってご報告いたします。

◇教会・社会団体・学校

洛陽教会(日キ)、盲人伝道協議会、頌栄学園宗教委員会、御器所教会(日キ)、ひばりが丘教会(日キ)、阿久根伝道所、田園調布教会(日キ)、日詰教会(日キ)、紀伊岩伝道所(日キ)、厚木教会(バプ連)、大阪教区手話の会「つたえて」、聖パウロ教会(聖公会)、関西学院高等部、聖公会東京教区、杉並教会(日キ)、本庄教会(日キ)、紅葉坂教会(日キ)、バプ連障がい者と教会問題

委員会、葛城キリスト教会(自メソ)、青山学院中等部

◇個人

梅木幸子 橋本克也・玉枝 児玉勢津子
崔正剛 永田淑子 竹内忠美 竹川雅美
小川加代子 大石忠 中原眞澄
中村雄介 崔祐先 矢野利紀
伊藤めぐみ 海老沢浩 平野淳子 井上広・玲子(2) 宮井武憲 米澤澄子

発行所

東京都世田谷区祖師谷3-1-17
ヴェルトルウーラ祖師谷102号
身体障害者団体定期刊行物協会

定価 百円